



上尾ロータリークラブ

2024-2025年度R.I.テーマ



THE MAGIC OF ROTARY



2024-2025年度 門崎 由幸会長

第3047回 例会

2025. 2. 6

会長あいさつ

週報 No.2280

発行 2025年 2月 13日

2024-2025年度
会長 門崎 由幸
幹事 齋藤 哲雄
副会長 坂本 忠光
副幹事 大木 崇寛
編集責任者・公共イメージ向上委員会
委員長 丹井 亮一

行事予定

2月20日 卓話「平和について」
上尾市青少年育成推進員
協議会 大谷内久美子様

2月27日 1Mに振替
(例会場・時間変更)
桶川市民ホール「響の森」

皆さん、こんにちは。本日もご出席いただきありがとうございます。
今年も新年明けてから1カ月が経ちました。新年会ではほぼ済んだかなと思います。先週の新年例会、ありがとうございます。今年初めての親睦例会でした。このような例会も必要なのかなと思っています。結婚・誕生のお祝いもさせていただきました。誕生日祝いは齋藤博重会員が年男・選暦で、大木保司会員も年男です。縁起の良い年、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

それでは一週間の報告をさせていただきます。2月4日(火)は第34回地域福祉を考える集いに出席してきました。主催は上尾市社会福祉協議会です。上尾RCの代表として感謝状を授与していただきました。授与された方や団体は結構な人数がいました。第二部には、十文字学園女子大学の人間生活学部人間福祉学科・佐藤教授による基調講演『住み続けたい地域をつくる～補い合う活動～』があり、拝聴してきました。講演は、地域で助け合うというような内容で、各自自治体などの実例発表がありました。聞かせていただいた中で、やはり今後、地域で助け合うことが必要になってくるのかなと思いました。受講していた中には若い方はほほいなくて、定年退職された方たちが聴いていました。年相応の方々へ支援をする機会を作っていかなければならないのかなと思っています。ぜひともそういった形でロータリーも活動していければと思っています。

さて新年例会でも出席できなかった深澤会員は、1月28日に起きた八潮の道路陥没で、翌日から現地に行っているようで、交代で今日も現地に行っているようです。水量を減らすためバキュームで吸っている作業と、下水管の中の調査を行っているようです。現地には80社くらいの業者が呼ばれていて、各業者ともかなり疲弊・衰弱しているようです。直径4mもある下水管なので、なんらか別のアプローチで落ちた運転手さんの救助ができればと考えています。

ところで地区事務所から、地区大会で承認するはずだった前年度の決算資料が届きました。内容はまだ目を通していませんが、マイナスの決算です。質問等があったら3月31日までにクラブでとりまとめて返信してくださいとありました。資料は追って会員の皆さんにもお配



ROTARY CLUB OF AGEO

りますので、しっかりと内容を見ていただければと思います。

そして地区事務所から地区法人化についての資料も送られてきました。会長会という形で説明会が行われたのですが、その資料に誤りがあったということで、再度送られてきました。法人化の可否についての内容です。まずは私に対応したいと思っています。

本日の例会主題についてです。2月7日が「北方領土の日」です。私が日本青年会議所の領土領海問題委員長として出向していた時に、一緒に出向していただいた宇多村会員による卓話です。私には見えない部分や経験していない部分を披露していただければと思います。北方領土に対して数百億円の予算がついています。北方領土を忘れないようにする予算が各県にもおいていて、埼玉県でも2月に数件のイベントがあるようですので、時間があればぜひとも行っていただければと思います。本日もよろしくお願いたします。

幹事報告

大木 崇寛 副幹事

齋藤幹事が公務で欠席のため、私から報告させていただきます。

○2月のロータリーレートは1ドル＝154円です。

○確定申告必要処理についてということで、皆さんのお手元に税制控除にかかわる証明書をお配りしました。確定申告の際にご活用ください。

○浦和中RCさん&北本RCさんから合同で「ファイヤーサイドミーティング」というオープン例会の案内が届いています。詳細は回覧させていただきます。ご興味のある方はメーキャップで参加いただければと思います。

○インターシティミーティングの記念公演で埼玉県警察音楽隊が演奏され、会員はもちろん無料で鑑賞できますが、ご家族やお知り合いもお誘いでき、参加予定のある方は無料入場券がありますので私までご一報ください。

○ロータリー手帳の申込案内が届いています。希望者は回覧に○印をお願いします。

R.I. 修了証授与

Part III 坂本忠光会員

Part II 大木崇寛会員



例会主題

北方領土の日について

2006年日本青年会議所 領土領海問題委員会 第1小委員会 副委員長 宇多村海児様

このテーマで卓話させていただくことについて緊張するとともに光栄に思っています。本日のテーマは北方領土ですが、領土領海問題委員会は、北方領土・竹島・尖閣諸島の3つをテーマとして研究をしています。ロータリーで今は「平和構築と紛争解決月間」ということで、本日のテーマについてお話しさせていただきます。

お手元に資料をお配りしました。外務省、経産省などさまざまな機関から資料を取り寄せてみましたが、最も相応しいと思ったのが、埼玉県教育委員会が作成したものでした。

まずは2月7日かどうかということの説明します。170年前の1855年(安政元年)、明治維新より前に、日露和親条約が締結されました。調印式を行ったのが2月7日ということで、この日を「北方領土の日」と昭和56年に決定しました。日露和親条約では、2国の国境が択捉島とウルップ島の間、択捉海峡に決定しました。またこの20年後の1875年に樺太千島交換条約により、日本は千島列島をロシアから譲り受けるかわりに、樺太全島を放棄しました。千島列島とは、カムチャッカ半島の手前、占守島(しゅむしゅとう)までで、ここまでが1945年

までは日本の領土でした。本日は日露和親条約で決められた択捉海峡を国境としてお話しさせていただきます。

この埼玉県教育委員会さんの資料の出来具合がすごく良く、これを見れば私が話すことはなくなってしまいますので、2006年の領土領海問題委員会に出向していた当時の思い出話ばめながらお話ししたいと思います。日本青年会議所では1970年代から領土問題、特に北方領土については大きくとらえ、以来綿々と積極的に取り組んでいます。領土領海問題委員会にある、いくつかの役割の中で、北方領土返還要求全国大会があります。全国大会は毎年2月7日、北方領土の日に開催されます。当時は九段会館1階大ホールで開催されていました。委員会メンバーは全国大会の側面支援をするわけですが、全国大会に出席できる関係者は限られていて、島から本土へ引き上げてきた家族遺族、返還要求をしている各種団体、支援団体等です。日本青年会議所領土領海問題委員会はもちろん関係者で、門崎委員長は中で登壇する役目をしていました。委員会メンバーである私は、今日のように寒かった2006年のこの日、九段会館の外に出て、カーキ色の戦闘服を着たような輩が乱入してくるような場合に備え、外をがっちりガードしていました。大会が始まると、よくテレビで見ると政治家の先生も入ってきます。

雰囲気や少し披露させていただくと、1945年終戦のどさくさにソ連軍が攻めてきて、追いたてられるように本土へ逃げたことで、凄まじい体験をもっている方々もご存命です。また、日本の遺族の方が聴衆として、大ホールで立ち見するくらい会場を埋めています。その会場で生半可な気持ちで入ってくる政治家は厳しい目にあうことになります。この全国大会では、北方領土から引き上げてこられてきた方々が、政治家が本当に返還要求に取り組んでいるかどうか、きちんと問題に向き合っているかどうかを見極める場であるのだな、というのが当時の私の率直な実感でした。

全国大会を終えると、夏にサマーコンファレンスがあり、領土領海問題委員会は政策提言を行います。この年2006年は、8月16日に第31吉進丸事件という大きな事件が起きました。根室の沖合で日本の漁船が、ロシアの政府警備艇に追いつけられ、銃撃され一人の方が亡くなられてしまった事件です。さらにタイミングが悪かったのが、領土領海問題委員会の



ROTARY CLUB OF AGEO



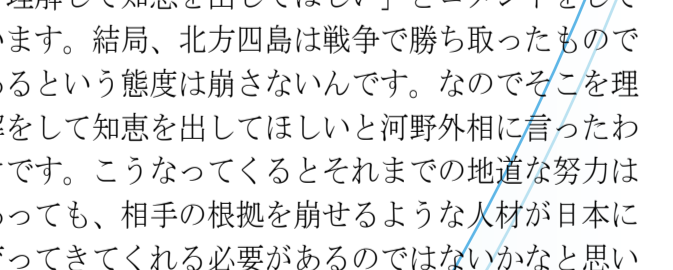
もう一つの役割としてあった北方四島交流事業=ビザなし交流に、門崎委員長や随員のメンバーが行く予定でしたので、にわかには日本青年会議所はざわつきまして、事件に対する見解が割れました。結果を申し上げると、門崎委員長はビザなし交流に参加しました。委員会では意見を戦わせ、私もどちらかというと、門崎委員長は行くべきではないという意見でしたが、今振り返ってみると、その時、もしも行かなかったとしたら日本青年会議所のビザなし交流事業がどうなっていたのかなと思いますので、門崎委員長の判断は正しかったのではないかなと思います。また議論の後は、青年会議所メンバーも門崎委員長の判断を後押ししようという考えになったのは、この問題が大きすぎて、日本青年会議所も明確な答えを出さず、すなわち、門崎前日に任せよというような状況に陥ったということ、行くべきでないと思っていた人間も、なぜか怒りの矛先が日本JICの上層部に向かい、委員会メンバーが結束し、その年はいい流れで終わったと、そして門崎委員長も四島に上陸することができたということがありました。多難な年、サマーコンファレンスをやって、政策的にも押しに行くぞという時に、あまりにも大きな事件が起こって、さぞかし当時の門崎委員長は身を引き裂かれるような思いだったろうなと、当時私は委員長の様子を見て思い、立場も変われませんでした、そしてたいへん尊敬した念も持まりました。

少し飛ばしましたが、なぜ漁船が撃たれたかという、海の幸の豊かさ、たいへん多くの海産物の宝庫であるところ、そして天然ガス、石油、レアメタルが多く眠っているとされています。ところがロシアではどうにもならない。本来なら国の経営なども考えるとロシアは北方四島を維持できないんです。

ところが地下に資源の見込みがありますし、ロシアは北方四島を第二次世界大戦、正当な戦闘で日本に勝利をして獲得したものであるという認識、根拠に立っています。資源の問題もありますが、そう言ったこともありまして、なぜがなんでも手放さないとこの立場を崩しておけません。そこで、北方四島は今後ずっと還ってくるのだらうかということ、日ソおよび日ロの交渉が、2001年まではいい雰囲気できておりました。1993年東京宣言、2001年イルクーツク声明を経て交渉次第では二島どころか四島が還ってくるのではないかといい期待がありました。ところが、2001年イルクーツク声明の3年後、ロシアにラブロフ外相が現れました。2004年から今も、20年間くらいずっとロシアで外相をしているのですが、この人は政治家というよりはもともと外交の公務員出身なんです。時を同じくしてプーチンが大統領に就任し、以来、北方領土については頑なに強硬な態度を崩していません。その一連が、資料にある「国際法から見た北方領土」に記されています。ロシアは、1945年に署名されたヤルタ協定で、樺太の南部及びこれに隣接する全ての島はソ連に「返還」すること、及び千島列島はソ連に「引き渡す」と書かれていると主張。これに対して日本政府は、ヤルタ協定は米・英・ソの秘密協定であり、日本はこの協定に参加なく、日本がこれに拘束されることはなく、また同協定が領土移転の法的効果を持たないと思見解を示し、アメリカも公式に表明しています。ロシアは密約があると主張しますが、サンフランシスコ平和条約で日本は千島列島を放棄しましたが、我が国固有の領土である北方領土は、この千島列島に含まれていません。このようにロシアにとって都合の悪いことを言われると、それはロシアが約束した

ことではなく、ソ連時代にやったことだから、今は知らないよ、と言うんですね。そう考えると今のままでは打つ手がないのかなと思ったりもします。今から6年前、河野太郎外相(当時)が、ラブロフ外相と日ロ交渉に臨みました。その際、ラブロフ外相は「ロシア国内を説得するために、ロシア(ソ連)不法占拠論を認めるわけにはいかない。この点をよく理解して意見を述べてほしい」とコメントをしています。結局、北方四島は戦争で勝ち取ったものであるという態度は崩さないんです。なのでそこを理解して知恵を出してほしいと河野外相に言ったわけです。こうなってくるとそれまでの地道な努力はあっても、相手の根拠を崩せるような人材が日本に育ててきてくれる必要があるのではないかなと思います。北方四島を戻すには戦争をするしかないと言ったクビになつた衆議院議員が何年前にいましたが、それは現実味がありません。あくまでも銃弾が飛ばない中で北方四島を戻すためにどうするかということ、天才的なひらめきをもってひっくり返せる人材がこれから育ててほしいなと思います。我々としても地域をリードする立場の組織・人間が、生まれやすいような下地作りをしたりすることが必要ではないかなと思います。解決の糸口は教育にあるのではないかなと思っています。

本日はご静聴いただき、ありがとうございます。



スマイル 宇多村会員、卓話いただきありがとうございました。

樋口会員 2月1日～3日、地区青少年交換委員会で来日学生と菅平へスキーに行ってきました！

長沼会員 氷川鍛神社様で節分豆まき祭りのお手伝いをしてきました。皆様にたくさんのお福が舞い込みますように！

門崎会長/坂本副会長/大木崇寛副幹事/大塚信郎会員/尾花会員/大木保司会員/大塚崇行会員/齋藤博重会員/久保田会員/関口和夫会員/須田会員/宇多村会員/山崎会員/木田会員/荒井会員

出席率	
会員数	33
出席免除	3
出席対象者	30
出席者数	17
56.67%	

例会日 毎週木曜日12:30～13:30 事務所 〒362-0035 埼玉県上尾市仲町1-8-31 新和エクセルビル303
例会場 上尾東武ホテル3F(コミュニティホール) TEL 048-775-7788 / FAX 048-776-9799

